

【研究概要】

統合失調症は再発を繰り返す慢性疾患であるが、病識に乏しく、服薬アドヒアランスは低い。服薬中断による再発を防ぐために、第2世代抗精神病薬の持効性注射剤 (SGA-LAI) が用いられている。抗精神病薬は用量依存性の副作用を生じるため、安定後は低用量投与が望まれる。しかし、再発せず SGA-LAI を減量することができるかに関するエビデンスはない。本研究では、安定した統合失調症患者を対象とした52週の有作為比較試験により、SGA-LAI の減量が再発と副作用に与える影響を検証する。